

CAMPUS COMMUNICATION

CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部 広報誌【セロリ】

2011
10 October
No.81



挑戦

東日本大震災・ボランティア活動

©Hawaii x Nakamura ©藤本淳 学長退任メッセージ

挑戦

自分自身の限界のラインを引かず
挑戦し続けることで道は開ける。

中村で学んだ多くの卒業生が
目標に向かって挑戦し続けて、
壁を乗り越えてきた。

いま中村で学んでいる学生も、
勉学、クラブ・サークル、ボランティアなど、
さまざまな挑戦をしている。

中村には、確実に受け継がれてきた、
チャレンジするDNAがある。



CONTENTS

02

「霜月祭」
実行委員長コメント

03

チャレンジするナカムラ生
東日本大震災・ボランティア活動

06

活躍する卒業生

07

Hawaii × Nakamura
RKBハワイまつり2011
ハワイアンシェフによる
ハワイ食文化紹介

09

藤本 淳 学長 退任メッセージ

挑戦すると自信がつく。
だから、また次も挑戦したくなる。



●第45回「霜月祭」実行委員長

大塚 香織さん

中村学園大学 栄養科学部 栄養科学科2年

中村の学園祭「霜月祭」が11月3日からいよいよ始まります。私は今年度の実行委員長を務めており、本番を目前にして改めて身の引き締まる思いです。

記念すべき第45回となる今年の「霜月祭」のテーマは「パズル」「&Z」。しには「love・life・peace」などの意味があり、さまざまな思いをピースに置き換えて一枚のパズルを完成させようという気持ちが込められています。目玉となるイベントは、そば飯やトルティーヤなどいろんな食が楽しめるグルメでしょうか。栄養科学部や短期大学部食物栄養学科などの学科があり、食の学びを深める中村だけあって、味には期待できると思います。

「霜月祭」の開催に際して、およそ800人の実行委員が準備に携わっていますが、私は実行委員長としてすべての進行を管理する役割を担っています。多くのメンバーをまとめていくことは簡単ではありませんが、みんなで一つの目標に向かっていく過程はとても充実しています。「霜月祭」が大いに盛り上がるものとなるよう、ラストスパート、精一杯頑張ります。

私にとって、今回の大役は大きな挑戦に他なりません。当初は、自分にそんな役が務まるのか不安もあったのですが、先輩方から受け継いだこのイベントを必ず成功させたいと思い、現在、全力で取り組んでいます。不思議だと思ふのは、一つ大きな壁に挑戦すると、自分に自信がつき、また次の新しい世界へ挑戦したいと思うようになります。今後もボランティアなど経験したことのない分野にもどんどんトライして、もっと自分の可能性をさらに広げていきたいです。



◎オープンから1周年を迎えた中村学園田島グラウンド

CELERY

中村学園大学・中村学園大学短期大学部
広報誌【セロリ】

2011.10 October

No.81



18

クラブ&サークル

児童文化部
(パネルシアターくらぶP.E.C.ペク)

17

わがゼミ案内

短期大学部 幼児保育学科
川俣 沙織セミ

11

EVENT and NEWS

10

入試告知

中村学園三陽中学校
中村学園女子中学校・高等学校

3月11日に起きた東日本大震災は、東北地方を中心に甚大な被害をもたらしました。被災地では復興のためのさまざまなボランティア活動が行われていますが、本学では学生の自発的なボランティア活動を支援し、被災地までの旅費を助成しています。今回は8月に災害ボランティアとして被災地を訪れた2名の学生のインタビューをお届けします。

子どもたちの笑顔が、 大人を元気にしてくれている。



山崎 涼子さん

中村学園大学 人間発達学部 4年生

◎参加団体:ふくおか元気応援隊(福岡市)

◎活動期間:8月1日～6日(6日間)

◎活動場所:岩手県陸前高田市

被災地に行く直前は多少の不安もありましたが、念願のボランティア活動ができるという期待の方が強かったです。私の将来の目標は幼稚園教諭になることです。ボランティア活動はもちろんですが、被災地の子どもたちの様子を自分の目で確かめたいという考えもありました。

言葉で言い表せない がれきの風景

8月1日の福岡市役所での出発式から長距離バスで約24時間かけて被災地近くの旅館に到着し、その日の夜はミーティングで、3日の朝から被災地である岩手県陸前高田市にバスで移動しました。海沿いに近づくにつれて広がる悲惨な風景。テレビでは何度も見ている風景ですが、実際に自分の目で見たとやはり違いました。見渡す限りのがれきの山は、言葉では言い表せないくらいすさまじいもので、バスの中は静まりかえりました。

被災地での活動は3日間。初日は、被災地の方々が私たちを温かく迎えてくださったこともあり、やっと活動ができるという、嬉しい気持ちでいっぱいになりました。1日目、2日目はがれきを種類別に分ける作業や溝に溜まった泥を除去する作業。どこまでも続く

がれきの山を前に個人の力の無力さを感じることがありましたが、時間が経つのも忘れて懸命に作業しました。そして3日目は被災地家屋の清掃。お伺いした家の方は、私たちの気持ちを汲んでくれて、とても低姿勢で接してくださいました。「この現状を多くの方に伝えてくれたら嬉しいです」と話されていたのが印象に残っています。一見ゴミのようなものでも、被災地の方にとってはとても大切なもの。一つひとつの作業を丁寧に行うことを心がけました。

被災地で感じた 子どもたちの力

私はさまざまな年代で構成される福岡市の復興ボランティアに参加して良かったと思っています。年配の方々のアドバイスは的確でしたし、多くの素晴らしい出会いもありました。最終日の活動を終えた時に感じたのは、被災地を離れるのが寂しく、もう少し活動し

たいという思いです。また、滞在中、短い時間でしたが被災した学校を訪れ、現地の先生方とお話しをする機会もありました。先生方が「子どもたちが元気だから明日も頑張ろうと思える」と話されていたのが印象に残っています。大人だけでは暗い空気になるところを子どもたちが明るくしてくれる…。がれきの隣で笑顔で元気に遊んでいる子どもたちを実際に見て、改めて子どもたちの力はすごいと感じました。

今回、貴重な体験をしたことで、私自身、もつというんなことに挑戦しようという気持ちにもなりました。現在はこの活動を糧にして、幼稚園教諭になるための就職活動を頑張りたいと考えています。就職活動は早ければ11月に終わるので、その後は学生でいる間にまた復興ボランティアとして被災地を訪ねたいと思っています。

福岡から元気を 念願の復興ボランティアへ

被災地の復興支援とともに福岡から元気を届けたいという意味を込めて名付けられた、福岡市の復興ボランティア「ふくおか元気応援隊」。私はこの団体の第7期に申し込み、8月1日から参加しました。参加人数は一般参加者に市職員を含めた37名でした。

私自身は就職活動が大詰め時期ですが、毎日テレビで震災のニュースを見るにつけ、今被災地に行かないと後悔するという思いがあり、復興ボランティアに参加することを決意しました。



圧倒的にボランティアが
足りていない現状に驚いた。



秦 奈々子さん

中村学園大学 栄養科学部 2年生

◎参加団体: Youth for 3.11
(学生団体/提携: 日本国際民間協力会NICO)

◎活動期間: 8月5日～13日(9日間)

◎活動場所: 宮城県気仙沼市、
岩手県陸前高田市

若者のチカラを結集し 復興支援活動へ

東日本大震災の復興支援活動を行う学生団体「Youth for 3.11」に東京の大学に通う兄が登録しており、すでに3回被災地でボランティア活動をしていました。兄から現地の過酷な状況を聞き、時間がある学生こそ被災地へ行くべきだという思いが強まり、私も被災地に行くことを決めました。

「Youth for 3.11」のミッションは、若者のチカラを最大限に発揮し、効果的な復興支援活動を実現すること。

私も学生のエネルギーで少しでも被災者の方々に元気づけたいという思いで参加しました。参加人数は31名。男女の比率は約半々で、そのほとんどは全国から集まってきた大学生でした。

被災者は今も毎日戦っている

参加学生はまず、東京に集まり事前研修があります。それから翌日に東北に移動。宿泊は岩手県の内陸部にある一関市内のマンションを借り、1部屋に7～8人の構成で寝泊まりしました。布団はなく、寝るときは寝袋です。ここをベースに、最終日は東京で事後研修があるために、実質は5日間のボランティア活動を行いました。活動は気仙沼市が3日間、陸前高田市が2日間でした。気仙沼の沿岸部はヘドロがすごく、私たちは田んぼに溜まったヘドロをかき出す作業を行いました。防塵マスクに長靴という姿で行いましたが、ガソリンのような臭いの中で行うため、その日に着ていた服は着ることができない状態になります。

被災地に行ってみなければ分からないとは思っていたのですが、実際に現地に足を踏み入れて抱いた第一印象は、想像を超えた惨状だったということ。さまざまなメディアを通じて知っていたものの、実際は違うと、現実を突きつけら

れた感じがしました。現地の方とお話しする機会がありました。3月11日から5カ月以上経った今でもすぐ動ける格好で寝ているとのこと、被災者は復興に向けて頑張りがちながらもいまだに恐怖と毎日戦っていました。

長期的な視点で ボランティア活動を

一日のボランティア活動を終えると、心身ともにヘトヘトになるのですが、私には宿舎に帰っても大事な仕事がありました。それは、参加者31名分の食事の用意です。自炊だったので、栄養科の学生が私一人だったので、その日の献立を考え、一緒に作る参加者に指示を行いました。そんな役割を担っていたため、いつの間にか私は参加者から料理長というニックネームを付けられていました。みんなで餃子を作ったり、料理を通じてコミュニケーションを深め、チームワークが更に良くなったと思います。

大学で学んだことが仲間の役に立ったことに喜びを感じましたし、今思うと、辛くも楽しいボランティアだったと思います。

今回、被災地へ行ったことで、福岡から遠く離れた場所まで起こった他人事という意識は完全になくなりました。今、多くの皆さんに伝えたいことは、圧倒的に復興ボランティアが足りていないということ。若い私たち大学生が行くことで、周りが明るくなります。年配の被災者にとっては、私たちは孫の世代。作業をするだけでなく、会話をするだけでもボランティアとしての存在価値があります。時間があり、自分も参加したいと思う方は、ぜひ行動を起こして欲しいです。そして実感したのは復興活動は長期戦だということ。まだまだ時間がかかります。私も長期的な視点でボランティア活動に参加していきたいと思っています。





学部・大学院事務室
田本 真子 さん

2泊3日のスケジュールで被災地へ

私は学部・大学院事務室の実習担当グループの一員として、多くの教員や学生に接する仕事をしています。3月11日以降、震災に関する話をするが増えました。話をする機会が増えるにつれて、自分にも何かできることはないだろうかという思いが強くなり、今回ボランティアに参加することになりました。

ボランティア団体を探している折、書店で「災害ボランティアの心構え」という本と出会いました。初めて災害ボランティアへ参加する私にとってはとても参考になる内容の本で、読み終えたときには、慎重になっていた私の背中を押された感覚を抱きました。そして、その本の中で紹介されている「遠野まごころネット」というNPO法人のボランティア団体に登録し、現地に行くことにしました。

期間は休日を活用した2泊3日で、8月下旬に行きました。実質、ボランティア活動を行ったのは1日のみです。岩手県遠野市に滞在し、大槌町の仮設住宅を5件回り、被災者の方々への物資のお渡しや要望の聞き取り等を行いました。日々の生活に一生懸命の被災者の姿に心を打たれつつ、あっという間の1日の活動を終えました。

関心を持ち、

小さなことでもいいので、

自分にできることを。

ボランティアのお手伝い

ボランティア活動を終え、被災者の方々が今、何を感じているか、必要としているかを知ることができ、とても貴重な体験をしたと思っています。福岡に帰って思ったことは、ここ福岡でも、何かできることはないかということでした。そこで、考えついたことは、私が関わった仮設住宅の訪問履歴のデータベース化です。そのデータベースのフォーム作成をお手伝いすることによって、ボランティア活動がより円滑に進み、被災者支援になるのではと考えています。

ボランティア活動を体験し、人とのつながりの大切さを強く感じました。一人の力ではできないことも、関心を持った人が集まれば、大きな力になります。これからも、いろいろなことに対し、「関心」を持ち続けたいと思います。



災害ボランティア、そして震災に関する知識は事前に本を読んで得た。



「遠野まごころネット」のTシャツを着て、福岡シティマラソンを走る予定の田本さん。

中村学園女子中学校・高等学校 「復興ボランティア隊」レポート

東日本大震災の復興を支援するために、中村学園女子中学校・高等学校の教職員6名、法人職員1名とその関係者2名、計9名による「復興ボランティア隊」が、8月9日から14日まで、宮城県東松島市にてボランティア活動を行いました。



現地での活動期間は3日間、イチゴ栽培をしている農家でボランティア活動を行いました。内容はイチゴ狩りができる大きなビニールハウスの中の、汚泥処理や使えなくなったイチゴ棚などのがれきを分別する作業でした。

参加した職員からは「われわれが手伝った農家の方々が、あの状況からもう一度やり直そうと決心するには、誰かの支えや寄り添ってくれる人が必要であることは間違いないと思います」という言葉が聞かれました。

もつとボランティア活動を続けたかったと言う皆さんの表情からは、仕残した無念さとともに充実感も感じられました。

また、9月29日には中村学園女子中・高校生を対象に、「東日本大震災「ボランティアに参加して」と題し、体験報告会が開かれました。何気なく過ごしている毎日に感謝するとともに、自然の驚異や命の尊さ、助け合いの大切さを考える場となりました。



活躍する卒業生

Graduate of Nakamura



タカクラホテル福岡 洋食部

舟木 慧さん

平成17年度 中村学園大学
栄養科学部卒業

中村学園大学で学んだ。 そのことが、確かな自信となっています。

「タカクラホテル福岡」洋食部で働くようになって、すでに5年が経ちました。今年からは係長という役職にも就き、改めて責任の重さを感じています。

私が当ホテルに就職したのは、大学時代にここでアルバイトしていたことがきっかけです。当時から、味のタカクラと世間で言われるほど、当ホテルの料理には定評があり、私もぜひここで料理の世界を学びたいと思い、就職を決めました。

洋食にはコースというスタイルがあり、お客さまの食べるペースを計りながら料理を提供しなければなりません。それは例えて言うなら、一人ひとりのお客さ

まと対話すること。間合いを計りながら調理したものが最もおいしく食べられるタイミングをつかみ、心地よいひと時を提供する。調理師は味だけでなく、食という優雅な時間を提供することも、大事な仕事のひとつだと思います。

大学では主に栄養学の学びを深めましたが、実際に社会に出るうえでは、たとえ栄養士として働くとしても調理の技術を持つておく方がいいと感じたので、調理師の免許を取得しました。

現在は洋食部門のみならず中華部門全メニューの栄養管理を任せられ、中村学園大学で学んだ栄養学が大きく役立つていることを改めて実感しています。

在学中は、特に三成由美先生にご指導いただいたことが思いに残っています。先生には厳しくも親身にご指導いただき、私は時間があればいつも先生の研究室を訪れ、いろんなことを相談させていただきました。三成先生は栄養学の基本だけでなく、挨拶の仕方や電話対応のマナーなど社会で必要な基礎もしっかりたたき込んでくださり、いざ社会人になってみると先生の教えがいかにありがたいものかを感じ知らされています。

中村学園大学の栄養科学部而言えば、福岡および九州では本場に知名度が高く、社会に出ればそのことを必ず感じることはできるはずです。それは、先生方の熱心なご指導と先輩方の積み上げてくださった実績があるからこそ。だから、後輩の皆さんもぜひ自信をもって就職活動にトライしてください。中村で学んだという誇りが、きつとあなた自身を輝かせてくれるはずです。

いま私は、さまざまなコンクールにも挑戦し、自分の腕を試しています。2011年も二つの料理コンクールで優勝を果たすことができ、少しずつ自信が持てるようになりました。今後の私の夢は、自分のお客さまを増やすこと。お客さまに「舟木の料理を食べたい」と言っていただけよう、さらに腕を磨いて頑張りたいと思います。

就職課コラム

「あなたが幸せを感じるのとはどんな時ですか？」

これは、先日添削したエントリーシートの質問項目です。その学生は『普通に生活できている日々が幸せだ』と回答していました。東日本大震災や台風12号の被害を見て、『普通』の生活に幸せを感じ感謝しているとのことでした。当初は悲観的だった就職活動も、現在は前向きに取り組んでいます。『社会人になっても働くことに幸せを感じ一生懸命頑張りたい』と締めくくる学生の言葉に感銘し、私自身も日々の生活に感謝し今できることを精一杯頑張ろうと改めて感じました。

1968年開業の歴史あるタカクラホテル福岡で働く舟木さんは、これまでに数々の料理コンクールで受賞歴があります。「料理だけでなく、優雅な時間も愉しんでいただきたい」。



「料理コンクール」主な受賞歴

- ◆2011年料理技能技術コンクール九州大会オードブル部門 優勝
- ◆2011年料理技能技術コンクール九州大会セット料理部門 優勝
- ◆2010年アンダルシア産食材を使った料理コンテスト全国大会 敢闘賞

Nakamura



Hawaii × Nakamura 1
RKBハワイまつり2011



フラダンスのステージに
本学の学生が参加。

平成23年9月3日、

4日の両日、アクロス福

岡にて福岡県・ハワイ州

姉妹提携30周年記念・

RKB毎日放送創立

60周年記念イベント

「RKBハワイまつり

2011」が開催され

ました。

イベントの2日目、シ

ンフォニーホールで行わ

れたKaLai Haele's

ペシヤルライブのステージに、福岡教

育大学附属福岡小学校の生徒とともに

に本学の学生31名が登場。使用した

曲は、福岡教育大学附属福岡小学校

の創立130周年記念歌「いのち...そして未

来へ」。

日本フラダンス界の第一人者であるカレイナニ早

川先生から、直接指導を受け5月下旬から

ひと月に2、3回、トータルで10日間程の合

同練習に励み、本番を迎えました。

白のオリジナルTシャツと赤いパウスカート

といういでたちで登場した学生たちは、多く

の観客が見つめる中、すばらしいフラダンスを

披露。大きな拍手をもらっていました。

大学の研修でハワイに行ったことがあり、それがきっかけで今回参加することにしました。学部も学年もバラバラの学生が気持ちをつ一つにして踊ることができたと思います。友人もたくさんできました。

石橋 朋子さん (中村学園大学短期大学部 食物栄養学科2年)

学生最後の思い出づくりにと参加しました。これまでダンス経験などまったく無かったのですが、今ではすっかりフラダンスの魅力に引き込まれています。近い将来、ハワイに行って、現地の人と一緒に踊りたいです。

上野 友布佳さん
(中村学園大学 人間発達学部 人間発達学科4年)

ステージではアイドル気分で、まったく緊張せずに楽しめました。フィナーレではお客さんも一緒に立ち上がって手をつないで踊ってくださって感動しました。カレイナニ先生にはとても感謝しています。

高藤 萌さん (中村学園大学
流通科学部 流通科学科3年)



日本フラダンス界の第一人者・カレイナニ早川先生。映画「フラガール」のモデルになった先生です。





Hawaii ×



Hawaii × Nakamura 2
ハワイアンシェフによるハワイ食文化紹介

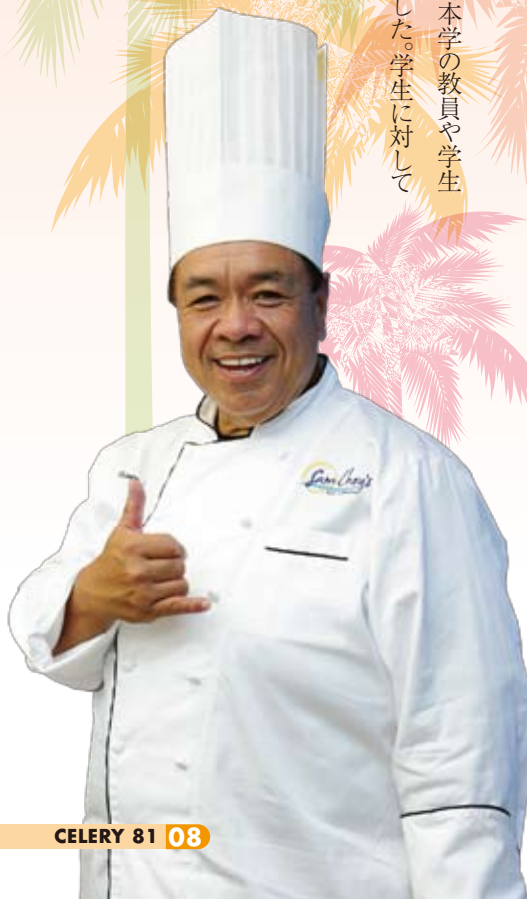


サム・チョイ氏による
楽しい食のひととき。

平成23年9月3日、本学において、在福岡アメリカ領事館主催によるハワイ州・福岡県姉妹提携30周年記念特別企画「ハワイアンシェフによるハワイ食文化紹介・体験プログラム&講演会」が開催されました。

内容はハワイ三大シェフの一人であるサム・チョイ氏を招き、ハワイ料理の調理デモンストレーションや試食を通じてハワイの食文化を体験するというもので、会場となった栄養・調理学実習室は、ほぼ満席となりました。サム・チョイ氏のユニークな語り口に会場は笑いに包まれ、また作られた料理の美味しさに参加者はとても満足な表情でした。最後にはサム・チョイ氏への質問コーナーもあり、ハワイの食文化を身近に感じる良い機会となりました。

なお、本企画において本学の教員や学生も調理をサポートしました。学生に対してサム・チョイ氏からは「これからの食文化を築いていくのは若い才能です。皆さん頑張ってください」とエールが送られていました。



サム・チョイ氏

シェフでありレストラン経営者でもある。料理専門チャンネルのフード・ネットワークでアメリカ版「料理の鉄人」をはじめ、数々の人気番組に出演。アメリカ料理界最高の賞とされるジェームズ・ピアード賞の太平洋地域シェフ部門に過去4回ノミネートされ、2004年には自らのハワイのレストランが同賞を受賞した。

学長メッセージ — 退任にあたって —

平成14年11月から3期・9年に亘り

中村学園のために尽力された藤本学長。

平成23年10月末の退任にあたり、

中村学園に寄せる思いを語っていただきました。



中村学園大学・中村学園大学短期大学部

藤本 淳 学長

建学の精神に立ち返るとき、
「中村らしさ」が
見えてくると思う

平成14年より本学学長に就任して9年。在職中は後援会の皆様をはじめ、多大なるご理解とご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

私が中村学園大学・同短期大学部の学長を務めるにあたって、まず最初に胸に刻んだことは、大学の基本である建学の精神に今一度立ち返ろうということでした。学園祖中村ハル先生教育理念はいへん素晴らしく、次の時代を受け継ぐ私たちは、その精神を十分に熟知し体現していくことが一つの大きな役割だと感じました。

私は常々「中村らしさ」が大切だということを書いてきましたが、すべての物

事には「らしさ」が必要だと思っています。学生らしさ、あるいは教員らしさ。個性というものは、「らしさ」という普遍性を守った上に生まれるものですから、本学においても建学の精神という原点を守っていくことこそが、「中村らしさ」につながると思っています。

これまで本学は、4万人以上の卒業生を輩出してきました。社会的にも高い評価を得ており、それは先輩方の多大なるご活躍があったからに他なりません。伝統というものは、ただ年月が長いだけではいけません。卒業生が社会でいかに努力したか、一人ひとりの資質に基づいた活躍と実績が結晶となり、それが揺るぎない伝統となっていくのです。ですから今ここで学んでいる学生の皆さんも、ぜひこの伝統を引き継いで、しっかりと学び、人間性を高めながら社会で大いに活躍していただきたいと思っています。

世界と地域、
その「グローバル」な視点が
この時代のカギになる

いま学生の皆さんに期待するのは、グローバルな視点を持つて社会に立ち向かっただけという事です。グローバルには、グローバルとローカルという二つの意味があり、世界だけでなく、日本あるいは地域に根ざした視点も重視するという事です。中村学園のあるこの福岡は、アジアの玄関口とも言われ、そうしたグローバル

な視点を養うにはたいへん恵まれた立地であると言えるでしょう。本学ではこの地の利を生かして、具体的な施策を進めており、例えばアジアの方々を特別講師として招きワークショップを開いてきました。さらに、流通科学部では平成20年に流通科学研究所を設立し、食を原点に今日まで発展してきた中村学園の実績を礎にしながら、アジアにおける食料の生産や流通、消費の動向、安全性などを学際的に研究しています。地域の視点で世界を見つめ、世界の視点で地域を見つめる、そんなグローバルな考えでさまざまな環境づくりに取り組みました。その環境は今後ますます整備されていくことでしょう。

こうした本学の恵まれた環境を学生の皆さんはぜひ自身のキャリア形成に役立ててほしいと思います。そして学業だけでなく、クラブ・サークルやボランティアなどの活動を通じて生涯の友人を見つけ、社会性を身につけながら、自身の人間力を磨いてほしいと思います。大学は豊かな人間性を育む場所です。これからも社会に誇れる人材を育成する場所としてさらなる発展を期待しています。

私が9年間に亘り学長を務めさせていただけただけのことは皆様方のご協力があったからこそだと思っています。最後になりましたが、あらためて教員の皆様、職員の皆様、地域の皆様、支えて頂いた企業の皆様、そして学生諸君に厚く御礼申し上げます。

充実した学びの環境で 女子力アップを目指します。

国立大学や難関私立大学を目指すための「特進コース」を改編するとともに、奨学金制度も充実しました。また、平成22年秋の新校舎完成に続き、今年7月には新グラウンドも完成するなど、学びの環境がさらに整いました。

■平成24年度入学試験のお知らせ

【中村学園女子中学校】

区 分	前期入学試験(一般入試・スカラシップ入試)	後期入学試験(一般入試・スカラシップ入試)
募集人員	50名	10名
試験日	平成24年1月7日(土)	平成24年1月15日(日)
試験科目	4教科(国語・算数・社会・理科)	2教科(国語・算数)
出願期間	郵 送：平成23年12月19日(月)～12月27日(火) *消印有効 窓口受付：平成24年1月5日(木)・1月6日(金)	郵 送：平成24年1月5日(木)～1月11日(水) *消印有効 窓口受付：平成24年1月14日(土)・1月15日(日)

【中村学園女子高等学校】

区 分	専 願 入 試	前 期 入 試	後 期 入 試
募集人員	スーパー特別進学Vコース 5名 特別進学Vコース 5名 一般進学コース 125名	20名 50名 180名	5名 15名 15名
試験日	平成24年1月24日(火)	平成24年2月3日(金)	平成24年2月11日(土)
試験科目	国語・数学・英語・面接	国語・数学・英語・理科・社会	国語・数学・英語
出願期間	平成24年1月18日(水)～1月20日(金)	平成24年1月27日(金)～2月1日(水)	平成24年2月8日(水)～2月10日(金)



募集要項・願書請求及び問合せ先



中村学園女子中学校・高等学校

〒814-0103 福岡市城南区鳥飼7-10-38

中村学園女子中学校・高等学校 広報部

TEL：092-831-0981(代) FAX：092-831-0985

【ホームページ】<http://nakamura-njh.ed.jp/>

中村学園三陽中学校 がんばり 評価入試



三つの
基本

みなさん、小学校6年間に一生懸命に頑張ったことが何か一つはあるのではないですか。そのがんばりを評価するのが、このがんばり評価入試です。「大会で優勝した」「段位を取った」も評価の対象ですが、「試合には負けたが3年間休まず精一杯練習に励んだ」「学校を6年間皆勤した」など様々ながんばりを評価します。

すなわち、テストの成績では評価されない皆さんの輝きを評価する入試です。

中村学園三陽中学校は、“私立のふつうの中学校”です！

学力向上を図っていくことはもちろんですが、本校では、主に学力向上に重きを置くいわゆる有名私立中学校とは性格を異にする“私立のふつうの中学校”を目指します。その姿勢のひとつとして、中3で高1の範囲を学習するような先取り学習はしません。その分、本校では、「自然との共存」「三陽でこんなことが出来るようになりました！」をテーマに、多くの行事を経験します。進路選択が、多くの場合学業成績の優劣を基準になされる昨今、本校では、前述のような中学校時の原体験が進路選択の基準となるような教育活動を行っていきます。

多様な個性の集まり
がんばり評価入試

基礎学力の徹底
ドリル学習の導入

生活習慣の確立
学校給食の実施

入試日程

■ A 日程【専願入学試験・一般入学試験】
平成24年1月6日(金)

出願期間：平成23年12月19日(月)～12月28日(水)

■ B 日程【一般入学試験】

平成24年1月21日(土)

出願期間：平成24年1月18日(水)～1月20日(金)

※詳細については、お問い合わせください。

中村学園卒業生の皆さん、三陽中学校への応援よろしくお願いします！

中村学園三陽中学校 福岡市西区今宿青木1042-33 TEL 092-882-6611(代) FAX 092-882-4387
<http://www.nakamura-sanyo.ed.jp>

財団法人 福岡国際交流協会 「平成23年度 留学生育英奨学金」 感謝状贈呈式及び交流会



馬駿さん

平成23年7月20日、福岡市内で留学生育英奨学金感謝状贈呈式・交流会が行われました。この奨学金は、福岡都市圏の大学の正規課程に在籍する留学生に、民間団体や企業、個人からの寄付金により、奨学金を支給する制度で、この日は、寄付者への感謝状贈呈式と、留学生と寄付者及び関係者等による交流会が開催されました。

贈呈式では、中村学園大学大学院流通科学研究科2年生馬駿さんが留学生代表としてスピーチを行いました。馬さんは、「日本は、私どもの国である中国にとって最大のビジネス

パートナーであり、私の故郷に、産業構造の高度化や企業の技術管理水準の向上に大きく貢献されました。このようなことがきっかけで私も、社会貢献できる強い人になりたいという夢を持って日本に留学して参りました。」と挨拶。交流会では、留学生や支援していただいてる方々と交流を深めました。



第1回 大学・短期大学部生と 併設高校生との交流ワークショップ



平成23年8月6日、中村学園高大連携推進事業として、「大学・短期大学部生と併設高校生との交流ワークショップ」が本学大講義室において開催されました。

テーマを「中村学園大学、中村学園大学短期大学部のキャンパスライフ」とし、大学・

短期大学部の各学科から選出された18名の学生が、併設校である中村学園女子高等学校・三陽高等学校の生徒約120名の前で、

「大学生と高校生とのライフスタイルの違い」

「大学・短期大学部で何を目標として勉強しているか」「高校生のうちに身につけておいた方が良いこと(生活習慣、勉強方法)」等を自身の体験を交えながら楽しく紹介しました。

質疑応答の時間も設けられ身近な先輩との非常に有意義な交流の場となりました。併設高校生にとって将来の進路や「キャンパスライフ」をイメージする良い機会となったようです。



「好いとうよ FUKUOKA2011」に参加

9月10日に福岡市役所ふれあい広場にて、「好いとうよFUKUOKA2011」福岡都市圏21大学の学生が企画する「高校生と大学生と市民の交流イベント」が開催されました。今回のイベントには多くの本学学生がスタッフとしても参加し、栄養科学部4年生の山元美鈴さんが実行委員長を務めました。



このイベントは、福岡都市圏にある21大学の学生が一体となって「まち」を元気にする祭典です。今年で2回目を迎え、「福岡都市圏21大学の紹介」「大学生と高校生の交流」「大学の枠を超えた学生と地域との交流」を目的に、大学紹介ブースでは大学の魅力などについて学生が紹介、ステージイベントでは各大学のダンスサークルによるダンスバトルやファッションショーなど、交流イベントでは高校生・大学生1,000人合同缶蹴り「カンケリなう!!」を行いました。地域交流ということで市民の方々も参加して「世界最大の紙吹雪でのモザイクアート」のギネス記録にも挑戦しました。



体験！納得！食品検査★ 食の安全・安心のリスクコミュニケーション

食物栄養学科

小田 隆弘 教授

平成23年8月18日・19日の2日間にわたり、城南区と中村学園大学の共働事業「平成23年度 食の安全・安心のリスクコミュニケーション」が、行われました。この事業は、区民の方が食の安全について漠然とした不安を持つなか、行政と大学が協力して、食品の安全に関する正しい知識の普及に努め、区民の方の食に対する安心を深めることを目的としたものです。

■第1日目

食品の細菌検査などを体験し、「食品の衛生がどのように守られているのかを知ること」についてガイダンスがありました。次いで、実験室に移動し小田教授からの説明とデモンストレーションの後、早速実験が行われました。参加者の方々は学生アシスタントの補助を受けながら、市販のミンチ肉を使って、ミンチボールを作った手の消毒効果実験や、まな板の二次汚染実験、ミンチボールの細菌検査などを行いました。

ミンチボールの細菌検査では、加熱の効果を見るために、生と加熱したミンチボールの両方の細菌検査を行いました。

実験終了後、講義室に戻り、小田教授から食の安全・安心についての講話や、

城南保健所の方から食中毒についての講話がありました。

■第2日目

培養後の細菌検査の結果を観察してスケッチをしたり、細菌数を計測しましたが、参加者の中には、アルコール殺菌した手でも菌が培地上に生えていて、



「よく手を洗ってもなかなか綺麗にならないのね」と驚かれている方もいました。次に、ブドウ球菌や大腸菌を実際に染色し、顕微鏡で観察しましたが、参加者の方々は細菌の小ささや、ブドウ球菌が一つひとつは丸いボールのような形をしていて、集まるとブドウの房のように見えることなどに、驚かれたり、楽しそうに観察されていました。

最後に質問の時間が設けられ、参加者からは「味噌汁などを中途半端な温度で温めるのは、あまり良くないのか」「電子レンジでの加熱に殺菌効果はあるのか」などのたくさんの質問があり、日常的な家庭でのさまざまな疑問を解決できたようです。また、「食中毒は、下痢や嘔吐、発熱などの症状が現れ、重篤な場合は死に至るものもあるが、食中毒を予防するためには、病原菌を付けない（手洗いや器具の洗浄をしっかりする）、増やさない（室温で放置しない）、殺す（十分な加熱、器具の殺菌、この3原則が大切だ」との小田教授の説明などがありました。

レポート 栄養科学部4年 平田 悠

人間発達学部4年 吉富由希子

（学事課SA）

「指導主任研修会」が行われました



中村量一 理事長

平成23年9月7日、本学西2号館において、『本学の学生の魅力、再考』をテーマに平成23年度指導主任研修会が行われました。

研修会ではまず、中村量一理事長から、「建学の精神」と教育・経営のビジョンや、東日本大震災後の日本の復興を含めた社会情勢と教育との関わりをもとに、本学の課題と将来の方向性を示す講話がありました。

つづいて、栄養科学部2年の秦奈々子さんによる東日本大震災の災害ボランティア活動報告と流通科学部3年の相良真史さんによる、『フリーペーパー『SAU (Student Asian Union)』の発行や、カフェの共同経営に関する発表がありました。

最後に、九州大学健康科学センターの福盛英明准教授を講師にお招きし、「大学生のQOLとコミュニケーション」をテーマに講演が行われました。九州大学で約8,000人を対象に行われたQOLに関する調査



栄養科学部2年 秦 奈々子さん



流通科学部3年 相良真史さん



九州大学健康科学センター 福盛英明 准教授

結果を基に、大学生のこころの内面や学生生活を充実させるための3つのポイントとして、自信力（自尊心・自己肯定感）、レジリエンス（精神的回復力）、コミュニケーション（精神的回復力）をあげられました。大学教職員として学生とのコミュニケーションを深めるうえで「話を聴く」ことが重要であり、しっかりとコミュニケーションをとれる体制が大切であるとお話があり、改めて学生支援の重要性を認識することができた研修会になりました。

「健康維持に関する研修会」が行われました

平成23年9月6日、西2号館4階2405講義室において、衛生委員会主催による教職員を対象とした「健康維持に関する研修会」が行われました。研修会は、健康には「心と身体の状態」が相互に強く関係していることから、心と身体の方

方に焦点をあてた3部構成で開催されました。研修会では、衛生委員会の役割と構成、活動内容についても紹介され、今後健康に関する情報を提供していくため、健康の保持増進に活用して欲しいと案内されました。



1 心の健康について

産業医 荻本逸郎 教授



2 疲労蓄積度自己診断チェック 集計結果について

看護師 井上紀子 学生課員



3 身体の健康について

産業医 森山耕成 教授



ふくおかで学ぼう2011 アカデミック・カフェ開催



三成由美 教授



三堂徳孝 准教授

医療』などさまざまなジャンルで9講座が実施され、大学講義の雰囲気を感じることができる人気イベントです。その第3回目となる9月16日、本学栄養科学部の三成由美教授と三堂徳孝准教授が講師として招かれ、「健康モデル食である日本型薬膳を食卓へ」をテーマに出張講義を行いました。健康増進や生活習慣病予防にアジアの伝統食文化と旬の食材を取り入れた日本型薬膳を紹介する内容で、参加者は真剣なまなざしで、講演に聴き入っていました。



福岡都市圏の大学・短期大学、福岡市、西日本新聞社で構成するふくおかで学ぼう2011実行委員会主催による、「アカデミック・カフェ」が8月から11月まで毎月行われています。この企画は、福岡の大学と街の魅力を伝えるため、福岡市天神のカフェを会場に福岡都市圏大学による『こども』『アジア・国際』『環境』『科学・

付属幼稚園 園長だより



彦岐っ子たちの運動会

彦岐幼稚園 園長 久富さよ子

2学期のイベントの華は何といっても運動会です。昨年は運動会へ向けて準備の過程でこんなことがありました。運動会の目玉種目のひとつ、赤白対抗リレーの選手を選ぶために、各クラスで話し合いをしました。リレーの選手は希望者をつります。すると、クラスのほぼ全員が選手になりたいと希望しました。担任は子どもたちと相談し、選手はくじで決めることになりました。Aちゃんはかけっこがとっても得意で、絶対に選手になりたいと思っていました。しかし、残念ながらくじに外れてしまいました。

ショックの余り、Aちゃんは泣き出し、家に帰ってから随分泣いたのだそうです。私はいったいどうなるのだらうと、ひそかに心配していました。数日後、Aちゃんの姿をみました。Aちゃんはリレーの練習をする選手たちにつきそい励ましていました。その姿は、Aちゃんが皆の指導をしているかのように私にはみえました。

運動会本番までの期間は、いろいろなエピソードが生まれます。先生たちは子どもたちに、2010年に開催されたワールドカップで活躍した「サムライジャパン」のサッカー選手たちに見習って、粘り強く最後までやり遂げることを、クラス全員で力を合わせることを、学んでほしいと願っていました。

Aちゃんは自分自身に生じた課題をどのように乗り越え、その思いの強さを仲間のために役立てようとしたのでしょうか。また、Aちゃんの思いをクラスやリレーの選手たちは、どんな受け止め方をしたのでしょうか。その後子どもたち自ら、リレーの練習を毎日続けていました。そしてその練習成果は、本番でも遺憾なく発揮されました。

彦岐幼稚園では運動会に限らず、すべての行事を子どもが自ら楽しむと同時に、様々なことに気づき、それを糧として行動していこうとする機会と場を提供するものととらえています。そのためには、保育者も子どもと共に楽しみ、併せてそれぞれがもつ課題を見極め、子どもに最も適した経験を選択し、準備できる感性が問われるように思います。

※肩書き等は開催日現在のもの

プログラム

- 司会・進行 幼児保育学科 FD 推進委員 森 康博
- 開会のあいさつ 学長 藤本 淳
 - FD 推進センター長・講話 FD 推進センター長 財部 忠夫
 - 各学部・学科からの発表
 - 栄養科学部 「栄養科学部における導入教育の概要」 教授 山根 一文
 - 教育学部 「教育学部 初年次教育科目『スタディ・スキルⅠ、Ⅱ』の実施報告と課題」 教授 笠原 正洋
 - 流通科学部 「流通科学部の導入教育の現状と今後の展開」 准教授 柳澤さおり 准教授 福沢 健
 - 短期大学部 食物栄養学科 「食物栄養学科における初年次教育についてーPDCAによる実施と再検討ー」 准教授 森脇 千夏
 - 短期大学部 キャリア開発学科 「キャリア開発学科における導入教育の取組み」 教授 酒見 康廣
 - 短期大学部 幼児保育学科 「幼児保育学科の導入教育についてー実践のまとめと展望ー」 准教授 古賀 和博
 - 質疑応答&総合討論
 - 閉会のあいさつ FD 推進副センター長 吉岡 慶子



第18回教育ワークショップ開催

平成23年9月7日、本学西4号館において、「第18回教育ワークショップ」が左記の内容で行われました。このワークショップは、毎年、本学の教職員を対象に開催され、全学的なFD（ファカルティ・ディベロップメント）の推進を図るための取り組みの一つです。今年のテーマは「各学部・学科における『導入教育』で、藤本学長から開会の挨拶がなされた後、財

部FD推進センター長の講話に始まり、FD推進センターの役割や主な活動計画について報告されました。続いて、各学部・学科における導入教育の目的や特色をはじめとする取組みが紹介され、課題や今後の展開が示されました。また、総合討論では全学に共通する方向性についての提言がなされ、今後のFD推進に繋がるワークショップになりました。

「ハラスメントに関する研修会」が行われました

平成23年9月6日、西2号館4階2405講義室において、教職員を対象とした「ハラスメントに関する研修会」が開催されました。

講師として、NPO法人福岡ジェンダー研究所理事の高木里美先生をお招きし、「大学におけるハラスメントの基礎知識」と題し、ご講演いただきました。

高木先生は、ハラスメントの定義や種類、その特徴について説明され、「ハラスメントは個人ではなく、組織の問題であり、人権侵害である。ハラスメントの被害は表面化しづらく、精神的・身体的影響は大きい。もしハラスメントが起こった時は放置せず、適切に対応して欲しい。」と強調されました。

講演の他、グループ別の事例検討や活発な質疑応答も行われ、充実した研修会となりました。



第38回公開講座 開催

今年で38回目を迎える公開講座が開催されました。公開講座は、地域との共生という観点から、大学開放活動の一環として市民の方々に本学の教育・研究の成果を還元し、交流を深める目的で開催されており、今回は「食を巡る文化」をテーマに3コースの日程で行われました。当日は多くの受講者が熱心に受講され、貴重な学習の機会となりました。



プログラム

テーマ「食を巡る文化」

■ Aコース 10/8

開講式 学長 藤本 淳

短期大学部食物栄養学科 講師 津田 晶子

短期大学部キャリア開発学科

講師 トーマス・H.ケイトン

『食文化を通じた英語コミュニケーション入門』

短期大学部食物栄養学科 講師 松隈 美紀

『郷土のお菓子でおもてなし』

■ Bコース 10/15

教育学部 教授 占部 賢志

『日本史の風景』

一人に歴史あり、食にドラマありー

中村学園大学 名誉教授 城田 知子

『栄養・食生活と生活習慣病』

久山町の栄養疫学研究からー

■ Cコース 10/22

栄養科学部 教授 大部 正代

『食の変遷から21世紀の健康食を考える』

栄養科学部 講師 熊原 秀晃

『1に運動、2に食事』

...健康づくりエクササイズの基本知識

※肩書き等は開催日現在のもの

2011夏のオープンキャンパス開催

平成23年8月6日、20日の両日、大学および短期大学部において、「2011夏のオープンキャンパス」を開催しました。2日間で4,960名の受験生・保護者の方々が来場され、大盛況のうちに終了しました。教員や在学生による相談コーナーや模擬授業、入試の傾向と対策講座、クラブ・サークル紹介、スタンプラリーなど、本学の教育内容や特色について理解を深めるためのイベントが催されました。

春のオープンキャンパスは、平成24年3月17日に開催します。



大学オリジナルグッズ販売

この度、新しいオリジナルグッズのしおりが完成しました。気分や好みによって図柄が楽しめる3種類のセットです。傷みにくい素材で、本に挟んでも抜け落ちないようカット入りのデザインになっています。オリジナルグッズは、丸善キャンパスショップ中村学園大学店で販売しています。



外部資金受入れ状況

受託研究

【研究者】 太田 英明 教授（栄養科学部）
【研究課題名】 微細化コンニャクグルコマンナンを用いた食機能増強食品の開発
【企業名】 財団法人九州産業技術センター
【金額】 1,780,800円

【研究者】 内山 文昭 薬膳科学研究所 所長(教授)
【研究課題名】 ペルー産薬用植物マカの生理機能の探索
【企業名】 株式会社ヤマノ
【金額】 1,800,000円
 ※本受託研究は、西日本シティ銀行との産学連携協力に基づき実施

研究助成

【研究者】 三成 由美 薬膳科学研究所 開発・教育担当部門長
【研究課題名】 健康に寄与する薬膳メニューの開発、及びその普及活動
【企業名】 西部ガス株式会社
【金額】 1,500,000円

【研究責任者】 内山 文昭 薬膳科学研究所 所長(教授)
【研究担当者】 治京 玉記 薬膳科学研究所 講師
【研究課題名】 タンパク質分離用 HPLC システムの開発
【企業名】 富士シリシア化学株式会社
【金額】 500,000円

共同研究

【研究代表者】 森口里利子 講師（栄養科学部）
【本学共同研究者】 伊藤 和枝 名誉教授
 中野 修治 教授（栄養科学部）
【研究課題名】 「塩味増強減塩しょうゆ」の血圧ならびに血圧関連因子への影響
【共同研究機関名】 花王株式会社ヘルスケア食品研究所
【金額】 1,625,000円



「三訂 応用栄養学」

津田 博子
 栄養科学部・教授 編著
 大和 孝子
 栄養科学部・准教授 共著
 (建帛社 平成23年8月)



教員の出版物

著者は、本学教員のみ記載
 (一)内は出版社 発行年月

「実践・カリキュラムマネジメント」

田村 知子
 栄養科学部・講師 編著
 (ぎょうせい 平成23年7月)



台湾・美和科技大学が本学を訪問

平成23年9月12日、台湾の美和科技大学から、林組繩理事をはじめとする代表团3名が本学を訪れ、学術連携等に向けた交流会が行われました。

交流会では、藤本学長から歓迎の言葉が述べられ、美和科技大学の林理事から挨拶があり、代表団が紹介されました。

引き続き、両大学の沿革や特色、教育環境等の紹介が行われ、今後の学術交流や交換留学について意見が交わされた後、学内の施設見学を行いました。翌9月13日には、中村理事長を表敬訪問され、短時間でしたが和やかに懇談が行われました。



第61回九州地区大学体育大会(インカレ)結果報告

第61回九州地区大学体育大会(インカレ)の夏季大会が、6月18日～7月18日の日程で行われました。このうち、7月2日・3日の2日間、バレーボール競技(男子)が本学体育館において開催されました。なお、冬季大会 11月19日～12月12日は剣道部が参加予定です。

夏季大会参加競技結果(6競技)

種 目		結果・判定			備考
バレーボール(男子)	1回戦	中村学園大学	2－0	九州看護福祉大学	
	2回戦		0－2	日本経済大学	
硬式テニス（男子）	1回戦	中村学園大学	1－4	鹿児島国際大学	
硬式テニス（女子）	1回戦	中村学園大学	1－2	宮崎公立大学	
空手道（男子）	1回戦	中村学園大学	●	長崎大学	
空手道（女子）	1回戦	中村学園大学	○	大分大学	
	2回戦		○	西南学院大学	
	3回戦		●	長崎国際大学	
弓道（女子）	予選リーグ敗退				

教職員の動き

採用人事 (平成23年7月1日付)
 学生課課員

森田 由貴

採用人事 (平成23年10月1日付)

学部・大学院事務室室員
 就職課課員

中尾留美子
 中村理恵子

退職人事 (平成23年8月31日付)

学部・大学院事務室室員

原 玲子

退職人事 (平成23年9月30日付)

講師(大学・流通科学部)
 助手(短大・キャリア開発学科)

田多良俊樹
 小椎尾紘美

しっかり者で、
時々おちゃめな先生です！



短期大学部 幼児保育学科 川俣ゼミ (2年生 33人)



絵本の世界を楽しみながら、 物語の本質を探求する

深くて広い絵本の世界を楽しみながら、その本質を探っていく、
それが川俣ゼミのテーマ。児童文化財への理解を深め、
制作活動を通じて、保育の現場で役立つ実践力を養っています。

これまで研究を進めてきて、学生の中には「絵本の中では、母親と男の子のペアがウサギで描かれやすいことに気づいた」「ライオンはオス、ニワトリはメスと設定されることが多く、動物によって仮託されるジェンダーに傾向がある」と

川俣ゼミのテーマは、絵本を中心とした児童文化財に関する研究。文献研究を通し、子どもが楽しむ物語教材である児童文化財への理解を深めるとともに、実際に文化財を制作することで保育者に必要な協調性を養っています。「絵本や紙芝居は子どもたちの心の成長にとって欠かすことのできない重要な存在です。物語を通し人への思いやりや自然への好奇心、生きていく喜びを知るのです。私のゼミでは、そんな児童文化財の持つ魅力の秘密について研究しています」。

（川俣先生の口癖）
ですです

講師
川俣 沙織 先生



いった、鋭い洞察力で絵本を分析する学生もいました。

「絵本は聞く力が身につく」とか「国語力が養える」といった教材的な位置づけで語られることも多いですが、私は基本的に、絵本は純粋に楽しむものだと思っています。だから、ただ保育に役立てるものとして絵本を使うのではなくて、人類の文化の結集である文学作品として楽しむとともに、敬意を示したい。私のゼミではこうした研究活動を通して、学生たちに絵本の奥深さを感じてもらえたら嬉しいですね」と、川俣先生は語ります。

ゼミではこの絵本研究にとどまらず、文化財の制作にも取り組んでいます。昨年は影絵人形でスイミーと花さき山を手がけ、セロハン紙を張り、プロジェクターで投影し影絵劇も行いました。

学生たちに川俣ゼミに対する印象を聞いてみると、「自分たちが取り組みたいことを尊重し、学生の自主性を高めてくれるゼミだと思います」といった声。幼児保育学科には知的好奇心が豊富で、なんでも知りたい、なんでもやりたいという自主性に満ちている学生が多いと語る川俣先生。「就職がゴールではない、だからこそ、この学びを生かしよりよい保育を実践していくために、学ぶ探究心を常に持てるよう、指導者としてサポートしたいと考えています」。



クラブ & サークル

CLUB & CIRCLE

児童文化部

[パネルシアターくらぶPEC(べく)]

◎部員数/27名

◎部長/成合 佑香
(人間発達学部3年生)



部員はみんな子どもが大好き。部室では、メンバー同士和気あいあいと準備を進めています。



部室には折り紙やテープ、マジックなど、パネルシアターの制作に必要なグッズが盛りだくさん。



地域の子育てをサポートするため、 パネルシアターの講演活動を展開

部員は全員、大の子ども好き。

子どもの目線に立って制作した楽しいパネルシアターを使って、保育園や幼稚園など、さまざまな場所で講演活動を行っています。

地域の子育てを応援するために、幼稚園や保育園、子育てサークルなどに出向いて講演活動を行っている児童文化部(通称PEC)。メンバーは27名を数え、部室ではいつもにぎやかな声が弾んでいます。講演の主な内容は、パネルシアターと運動あそび。パネルシアターとは一枚の大きなパネルを背景に、動物などの絵を動かしながら物語を演じる劇で、幼稚園や保育園から依頼を受けて講演活動を行っています。部活は月・火・木曜の週3回、主に講演活動に向けた準備を進めており、パネルシアターの素材を作ったり、講演活動を告知するチラシを作成したりしています。

「子どもたちに興味を持ってもらえるように、絵のタッチや表現の仕方を工夫するようにしています。講演後に子どもたちやお母さんから「楽しかった」と言ってもらえるのが最高にうれしいですね」と、部長の成合佑香さんは笑顔で語ります。

児童文化部のこうした活動は、その自由な発想と行動力が認められ、「学生

ボランティア団体」助成に採択されました。最近では、城南保健所との共同プロジェクトとして「O-157の予防と食育キャンペーン」なども行っており、食育を題材にしたパネルシアターを用いながら、子どもたちに食の大切さを伝えています。

「この部に所属しているメンバーは、みんな子どもが大好きな人ばかり。だから、準備を進めるときは子どもの気持ちになって、自分たちも楽しめることを第一に考えています。私たちが楽しみながら演じれば、子どもたちもきっと一緒に楽しくてくれるはず。これからもいろんなアイデアを盛り込みながら、多くの子どもたちと触れ合いたいですね」。



ニコニコ明るい笑顔がとても印象的な、部長の成合佑香さん(人間発達学部3年生)。

第45回 霜月祭

11/3 Thu
12:00~18:30

11/4 Fri
10:00~18:30

11/5 Sat
10:00~18:30



7大学合同スタンプラリー

豪華商品盛りだくさん!
7大学制覇しよう♪

◆福岡大学 ◆九州産業大学 ◆福岡女学院大学
◆福岡女子大学 ◆筑紫女学大学
◆福岡工業大学 ◆中村学園大学

パズル-L&N-

「パズル」には、中村の学生、先生方、地域の方々、来客者、1人1人が持っているピースをつなぎ合わせて、ひとつのパズルを完成させたいという願い、「L&N」にはlove, life, live, learn nakamuraという意味が込められています。

テーマ

N-1グランプリ

日付：11月4日
時間：14:00~15:00
中村1「面白い」という王冠を手に入れるのは誰だっ!!!去年に引き続き好評の企画。見どころです☆

オススメ

B級グルメ

素材や作り方にこだわった味はスペシャル級♥
値段はお手頃!!!
ぜひ、食べてみてください♥

フード

ミスキャンパスコンテスト♪

日付：11月4日
時間：11:00~13:30
中村の美女が集合!
ミスの栄光を掴むのは誰!?

オススメ

エコキャップ

キャップを集めて発展途上国の子ども達にワクチンを送りましょう♪

チャリティ

チャリティバザー

バザーの収益金は地域の方々へ日ごろの感謝の気持ちを込めて城南区社会福祉協会へ、世界の子どものためにセイブ・ザ・チルドレンへ寄付します! いろんな掘り出し物を探しに来て下さい!!! 東日本大震災の義援金もよろしくお願ひします!!

Tee Special Live

芸能

日付：11月5日
13:00 / 開場
14:00 / 開演
in 体育館



中村学園大学
中村学園大学短期大学部

広報誌セロリの定期購読について

定期購読をご希望の場合は、購読料（2年分）として郵便小為替1,200円分と、郵便番号・住所・氏名・電話番号を書いた紙片を同封のうえ、学事課宛にお送りください。なお、広報誌の発行は、年4回（4・7・10・1月）となります。
※保護者の方には毎号送付しています。

【申込み先】

〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1
中村学園大学 学事課「広報誌定期購読申込」係